

## 白山念仏池（仮称）のタマミクリ及び水生生物を中心とする生物相

梅 典 雅 石川県白山自然保護センター  
平 松 新 一 石川県白山自然保護センター  
江 崎 功 二 郎 石川県白山自然保護センター

### A preliminary report of the aquatic biota at Nenbutsu Pond in Mt. Hakusan

Norimasa TOGA, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*  
Shin-ichi HIRAMATSU, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*  
Kojiro ESAKI, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

#### はじめに

白山のゴマ平避難小屋から三方岩岳に至る、ほぼ石川・岐阜の県境を通る登山道は北縦走路と称されている。この北縦走路の中ほどにある妙法山の南西に池の存在が確認されたのは、2005年に白川村在住の山口悦郎氏が登山道の草刈り作業中に、偶然見つけたことによる（乾，私信）という。

2013年に乾氏から送られた写真により、この池にミクリ属の植物が生育することが確認できたことから、2014年に水生昆虫等を併せた調査を行ったので報告する。ただし、回数及び時間的な制約から、調査は十分なものとはなっていない。

この調査を行うきっかけとなった情報を提供していただいた乾靖氏及び山口悦郎氏にお礼を申し上げる。また、トビケラ目の同定をしていただいた大阪府立大学の谷田一三博士、カメムシ目の同定をしていただいた埼玉大学の林正美博士、甲虫目の同定をしていただいた法政二高の鈴木互氏及び石川県農林総合研究センター林業試験場の八神徳彦氏、それ以外の昆虫の同定をしていただいた小松市の富沢章氏に深謝申し上げる。

#### 調査地と調査方法

調査を行った池は、妙法山（標高1,775.6m）山頂から南方約500mにあり、標高は約1,700mである（図1）。池は県境上にあると考えられ（乾，私信）、形状はくびれのある楕円形で、目測では長径（東西）が約50m、短径（南北）が20mほどである（図

2）。池の水は、南北の凸地からの雪融け水や雨水の流入によるものであり、通常は西端（図2 B側）にある溝から流出しているが、急な増水時には東端からも流出している可能性がある。水深は測定していないが、後述する植生から、大半は1m未満であると推測される。

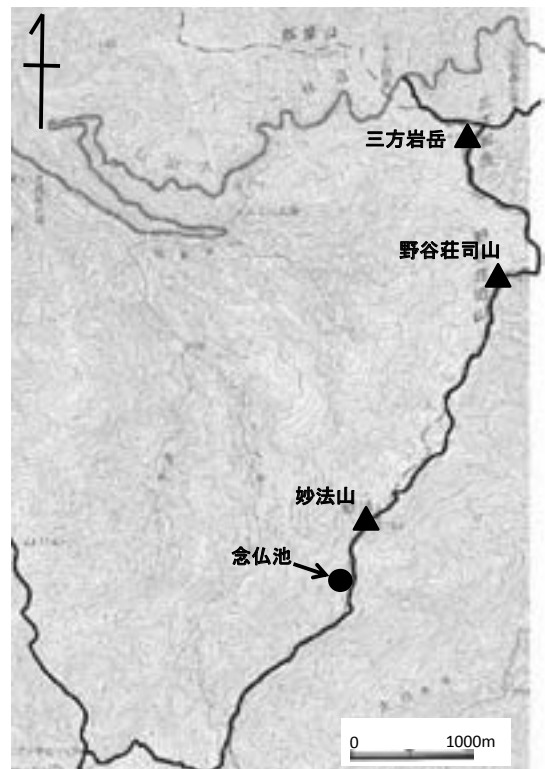


図1 調査地

国土地理院発行5万分の1地形図「白川村」を使用。

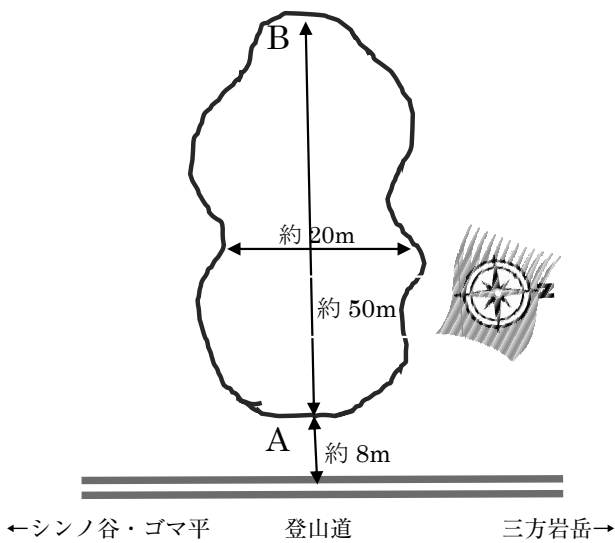


図2 念仏池（仮称）の概念図

この池は、白山山中の池としては小さくはないが、国土地理院発行の地形図には記載されておらず、また、登山道から7、8 mしか離れていないにもかかわらず、灌木等によりその存在がほとんど知られていなかったと考えられ、山口氏が地元白川村で聞き取り等を行ったものの、これまでのところこの池を知る者は見つかっていない（乾，私信）。そこで、ここではこの池の名称を一带の尾根の通称である「念仏尾根」から、「念仏池（仮称）」とした。

調査は、2014年6月20日と同年9月3日に行ったが、6月の調査時は、池面の大半が雪に覆われてお

り、調査は一部の昆虫類や両生類に限られた。調査方法は、植物は目視、水生動物は岸から手網によるすくい取り、陸生昆虫は補虫網を使用して行った。

### 調査結果とまとめ

#### 植物

池の周囲の植生を概観すると、ダケカンバやオオシラビソ、ナナカマドなどの高木・亜高木層、アカミノイヌツゲやオオバスノキなどの低木層のほか、林床にはチシマザサが多く、被圧されたハクサンシヤクナゲも見られた。

池の水際から水面で見られる維管束植物は、ダケカンバなどの樹木を除けば、ほぼタマミクリ (*Sparganium glomeratum*) のみであり、浮葉を含めると水面のおよそ7割を占めるとみられた。

白山では、これまでに観光新道の殿ヶ池や中宮道北弥陀ヶ原の池塘群、加賀禅定道の油池などでホソバタマミクリ (*Sparganium glomeratum* var. *angustifolium*) が確認されている（石川県白山自然保護センター，1995）。タマミクリは、葉の中ほどの幅が6-12mm（北村ら，1973）であるのに対し、ホソバタマミクリは幅2-4 mm（北村ら，1973）とされる。しかしながら、前述した白山の3地域で採取された標本を確認すると、個体によっては6 mmに達するなど連続的であり、明確な区別は難しいと考えられた。本調査で確認したものは、概ね4～8 mmであり、ここではタマミクリとして記載したが、いずれにせよこれまで白山で確認された広義のタマミクリ群落としては、最大規模であるといえる。



写真1 東端（図2，A側）から見た念仏池の全景（2014年9月3日撮影）。手前と奥にタマミクリが見られる。



写真2 西端（図2，B側）から見た念仏池（2014年9月3日撮影）。水面はタマミクリで覆われている。



写真3 タマミクリの花 (上：雄花、下：雌花)

なお、本種は、改訂・石川県の絶滅のおそれのある野生生物<植物編>では、絶滅危惧Ⅱ類に選定されており(石川県, 2010)、保護上重要な植物種である。

動物

今回の調査で昆虫類はトンボ目3種, カメムシ目1種, コウチュウ目11種, トビケラ目1種の合計16種, 両生類は2種が記録できた(表1)。これらのうち水生昆虫は池の北側あるいは東側, 両生類は池の東側の浅い水域で採集された。

トンボ目は全て幼虫で採集された。ルリボシヤンマは7月に1個体, 9月に1個体, オオルリボシヤンマは9月に2個体, タカネトンボは6月に5個体, 9月に2個体が採集された。これらのうち, ルリボシヤンマとタカネトンボは県内の山地から丘陵部で, オオルリボシヤンマは低山から平地に生息し, いずれも加賀地区から能登地区まで広く記録されている種類である(石川県, 1999)。

カメムシ目はエゾコセアカアメンボ1種類が6月にオス1個体, メス7個体, 9月にオス4個体, メス3個体が採集された。同種は石川県レッドデータブックでは情報不足種として記載され, 石川県が国内分布の西限であると記されている(石川県, 2009)。これまでは白山殿ヶ池の記録だけだったが(石川県, 1999), 2014年は環境省による小桜平の調査でも確認された。この種は富山県では山地上部から高山にかけて分布しており(根来, 1988), 北陸地方では山岳高所を分布域としていることが推察できる。

表1 念仏池で記録された動物

昆虫綱 Insecta	トンボ目 Odonata	ヤンマ科 Aeshnidae	オオルリボシヤンマ <i>Aeshna nigroflava</i> Martin ルリボシヤンマ <i>Aeshna juncea</i> (Linnaeus)			
		エゾトンボ科 Corduliidae	タカネトンボ <i>Somatochlora uchidai</i> Foerster			
		カメムシ目 Hemiptera	アメンボ科 Gerridae	エゾコセアカアメンボ <i>Gerris yezoensis</i> (Miyamoto)		
		コウチュウ目 Coleoptera	ゲンゴロウ科 Dytiscidae	マメゲンゴロウ <i>Agabus japonicus</i> Sharp クロズマメゲンゴロウ <i>Agabus conspicuus</i> Sharp ヒメゲンゴロウ <i>Rhantus suturalis</i> (Macleay)		
				コガネムシ科 Scarabaeidae	ルイスチャイロコガネ <i>Sericania lewisi</i> Arrow	
				コメツキムシ科 Elateridae	ムネナガカバイロコメツキ <i>Ectinus longiocollis</i> (Lewis) クロコメツキの一種 <i>Ampedus</i> sp.	
			カッコウムシ科 Cleridae	アリモドキカッコウムシ <i>Thanasimus lewisi</i> (Jacobson)		
			ツツシクイ科 Lymexylidae	ツマグロツツシクイ <i>Hylecoetus dermestoides</i> (Linne)		
			ハムシダマシ科 Lagriidae	ナガハムシダマシ <i>Macrolagria rufobrunnea</i> (Marseul)		
			カミキリムシ科 Cerambycidae	クモマハナカミキリ <i>Evodinus borealis</i> (Gyllenhal)		
			ハムシ科 Chrysomelidae	ヨモギハムシ <i>Chrysolina aurichalcea</i> (Mannerheim)		
			トビケラ目 Trichoptera	トビケラ科 Phryganeidae	アミメトビケラ属の1種 <i>Oligotricha</i> sp.	
			両生綱 Amphibia	サンショウウオ目 Caudata	サンショウウオ科 Hynobiidae	クロサンショウウオ <i>Hynobius nigrescens</i> Stejneger
				カエル目 Salientia	アオガエル科 Rhacophoridae	モリアオガエル <i>Rhacophorus arboreus</i> (Okada et Kawano)

コウチュウ目のうち水生昆虫は3種類、陸生昆虫は8種類だった。水生昆虫は3種ともゲンゴロウ類で、マメゲンゴロウは9月に2個体、クロズマメゲンゴロウは6月に2個体、9月に5個体、ヒメゲンゴロウは6月に1個体が採集された。これら3種はいずれも県内に広く分布する普通種である（石川県、1999）。陸生昆虫のうち、クモマハナカミキリは、亜高山帯の各種の花を訪れることが知られている（石川県、1999）。

トビケラ目はアミメトビケラ属の1種の幼虫が6月に4個体採集された。アミメトビケラ属は本州には2種分布しているが、幼虫による同定はできない（谷田、私信）。そのため、これまでの白山地域で記録されたアミメトビケラ（上馬、2009）も含めて、成虫を採集し種を決定する必要がある。

両生類では、モリアオガエルとクロサンショウウオが記録された。モリアオガエルは6月に卵塊が、9月には新成体が確認され、クロサンショウウオは6月に繁殖期の特徴をもつ個体が、9月には幼

体および新成体が確認された。これら2種は、石川県では広い範囲で生息が確認されており、白山の2,000mを超える地域でも記録されている（宮崎、1996）。

#### まとめ

今回の調査で、念仏池にはゲンゴロウ類やモリアオガエルなど県内に広く分布する種が確認された一方で、タマミクリやエゾコセアカアメンボなど山地特有の種類も確認できた。白山にはこの池以外にも多くの湿地や池沼が存在するが、それらのほとんどは調査されていない。今後これらの環境を詳細に調査することによって白山の池沼および湿地における生物相が明らかになるだろう。

#### 引用文献

- 石川県白山自然保護センター（1995）白山高等植物インベントリー調査報告書。石川、163pp.
- 石川県（2010）改訂・石川県の絶滅のおそれのある野生生物<植物編>2010。タマミクリ。
- 石川県（2009）改訂・石川県の絶滅のおそれのある野生生物<動物編>2009。エゾコセアカアメンボ。
- 石川むしの会・百万石蝶談会（1999）石川県の昆虫。石川県環境安全部自然保護課、石川、537pp.
- 北村四郎・村田源・小山鐵夫（1973）原色日本植物図鑑草本編 [Ⅲ]・単子葉類、pp.416-417。保育社、東京。
- 宮崎光二（1996）第1章両生類。石川県両生爬虫類研究会編、石川県の両生・爬虫類、pp.1-31。石川県環境部自然保護課、石川。
- 根来尚（1988）富山県における淡水棲アメンボ類の分布と生息場所。日本生態学会誌 38：9-17。
- 上馬康生（2009）白山大笠池の水生昆虫を中心とする動物相。石川県白山自然保護センター研究報告 36：33-34。

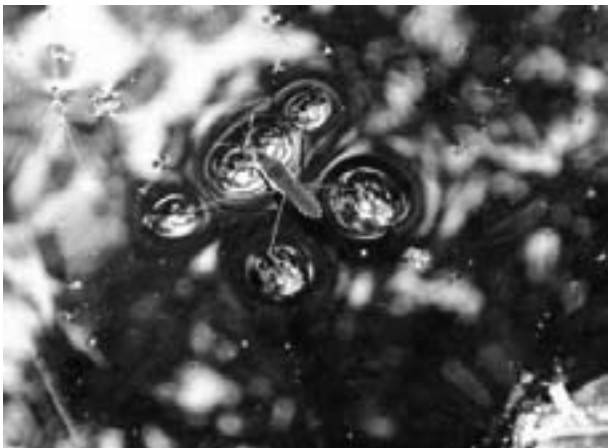


写真4 エゾコセアカアメンボ